

講評

出題の意図

国語〔現代文〕

国語においては、基礎学力の確認を目的として出題します。日ごろの学習を着実に積み重ねておけば取り組める標準的な問題ですから、語句の知識を身につけ、文章の展開を丁寧におさえて読む練習を積み重ねればよいでしょう。

- ①【漢字の知識】常用漢字（一部常用外）の書き取り・読み、および常識として知っておいてほしい読み
- ②【語句の知識】慣用表現、語句の意味など
- ③【文脈を読み取る力】指示内容、接続語、文中の言い換え、内容・理由、心情や場面の推移などの理解
- ④【広く文脈を読み取る力】表現の特徴、論理展開、筆者の主張や内容、趣旨合致など、文章全体の理解

国語〔古文〕

教科書で学習する程度の標準的な文章を用いて、基本的な知識や読解力の確認を目的として出題しています。基本的な語句の意味や古典文法の知識を確実に身につけることを心がけて学習してください。また、現代文と同様に、文章の因果関係、場面の展開や登場人物の関係などを理解しながら、丁寧に読み取る練習を積み重ねましょう。

- ①【語句の知識】語句の読み・意味など
- ②【文法知識】用言、助動詞、助詞、敬語など
- ③【現代語訳・解釈】語句や文法の知識に基づき、文脈に即した現代語訳や解釈
- ④【文脈を読み取る力】主語の把握、指示内容、和歌の表現、内容・理由、心情や場面の推移などの理解
- ⑤【広く文脈を読み取る力】主題や登場人物の心情、筋の展開など、文章全体の理解
- ⑥【文学史の知識】上代～近世の基本的事項

*国語の問題は大問が2題（問題Ⅰと問題Ⅱ）出題されます。

問題Ⅰは現代文のみです。問題Ⅱは現代文と古文から一つを選択します（受験時に選択することができます）。

出題内容・解説

2025年度入試B日程〈3科目型〉の問題から、特に正答率の低かった問題を中心に取り上げて解説してゆきます。なお、2日間ともよく解答できていました。

●「2月2日」

Ⅰ・問三の傍線部（b）「俄には」の意味を解答する設問で、誤答が目立ちました。傍線部直後に「信じ難いのではないのでしょうか」と続くことから④「素直には」が多く解答されていましたが、これは「俄には」という語句の意味をそのように考えたというより、「にわかには」という読みが分からなかった人もいるかもしれません。「にわか」は平仮名で見ることが多いかもしれませんが、漢字で使われることも決して珍しくありません。漢字の知識として常用外のものも出題することはあるので、常用外の漢字であっても文章によく出てくるものは覚えておくようにしましょう。

Ⅱ（現代文）・問三の二重傍線部（a）「穿ったような」が難しかったようです。動詞「穿つ」は元は「穴を開ける」ことを意味しますが、「物事の本質や人情の機微を指摘する」ことも意味するため、正解は①「鋭く見透かすような」となります。「うがった見方」という言い回しを「疑ってかかるような見方」と捉える人が近年増えていますが、本来は上記のような意味なので、是非覚えておきましょう。

Ⅲ（古文）・問六は傍線部（2）が誰のどのような様子かを答える設問ですが、正解が①であるのに対し、「誰の」も「どのような」も異なっている④と答えた解答が多く見られました。ここでは「これがやうに苦しげに見まゐらすことはなくて」とあるように、これまで見たことがないほどに天皇が苦しそうな様子であることが述べられています。また、傍線部に「思ひあひたり」とありますが、「あふ」は他の動詞の後に付くと、複数の人がいっせいに、あるいは互いに同じ動作をすることを表します。このことと、傍線部がある段落のはじめの方に「たれも」とあることから、傍線部は筆者一人ではなく複数の人（ここでは宮中の人々）が主語であることが分かります。

●「2月3日」

Ⅰ・問九は、傍線部（2）「魅力ある言葉」というのがこの文章の中でどういったものを指すのかを問うています。正解は③ですが、それと内容がよく似た①を選択した解答が多く見られました。①には「言葉が指し示す内容だけでなく、言葉そのものにも…」、③には「言葉が指し示す内容ではなく、言葉そのものに…」とあることから、「魅力ある言葉」に内容が

関係するかどうかが解答の鍵となります。そこで傍線部の次の段落を見ると、インターネットを検索して多くヒットするような内容が魅力的な言葉は、筆者にとっての「魅力ある言葉」ではなく、「人騒がせ」だと述べられています。筆者はその内容ではなく「言葉そのものの魅力」を求めているので、③が正解ということになります。

Ⅱ (現代文)・問一は「溢」「愉」とともに正答率が芳しくありませんでした。「溢」は「溢血」といった症状を指す言葉で「イツ」という音読みを日常の中で知る機会があると思います。「愉」は、「ユ」という読みが分かっていても、同じ読みをする漢字が分かりにくかったかもしれません。「臾」はわずかな時間を意味する「須臾にして」という表現が漢文をはじめとして見られます。

Ⅱ (古文)・問九は文学史に関する設問です。問題文に「平安時代の作品」と書いてありますが、正解である『夜の寝覚』が平安時代の作品であることが分かりにくかったようです。平安時代・鎌倉時代は現存している作品数がそこまで多くなく、いずれも有名な作品ですから、基本的な文学史の知識として押さえておきたいところです。

学習のポイント・アドバイス

現代文の出題では、現代社会が形成されるまでの動向を分析したものや現代社会における重要な問題を扱ったものを多く採用しています。教科書や参考書に掲載されている文章だけでなく、新聞の社説・論説や新書の類いなどにも広く触れ、さまざまなテーマの文章を読んでおくようにしてください。

古典文学は、現代の社会常識とは異なりますので、その点に留意して理解するように心がけてください。

解答例 (一般選抜(B日程)・国語)

2月2日					2月3日						
国語-1					国語-2						
I		II現代文		II古文		I		II現代文		II古文	
ア	②	タ	①	ア	④	ア	②	ア	⑤	ア	⑤
イ	⑤	チ	④	イ	①	イ	④	イ	⑤	イ	②
ウ	③	ツ	⑤	ウ	②	ウ	⑤	ウ	④	ウ	④
エ	⑤	テ	②	エ	④	エ	③	エ	①	エ	②
オ	④	ト	①	オ	③	オ	①	オ	⑤	オ	③
カ	①	ナ	③	カ	①	カ	②	カ	③	カ	②
キ	②	ニ	④	キ	⑤	キ	③	キ	④	キ	③
ク	③	ヌ	②	ク	③	ク	②	ク	②	ク	④
ケ	④	ネ	③	ケ	②	ケ	⑤	ケ	①	ケ	①
コ	①	ノ	④	コ	③	コ	①	コ	②	コ	③
サ	⑤			サ	②	サ	③	サ	③	サ	①
シ	③			シ	①	シ	③	シ	④	シ	②
ス	②			ス	④	ス	②	ス	①	ス	③
セ	④			セ	③	セ	⑤	セ	②	セ	②
ソ	②			ソ	②			ソ	②		